

2023 年 10 月 30 日
日本労働組合総連合会
会長 芳野 友子

【はじめに】

- ・みなさま、大変お疲れ様でございます。
- ・春季生活闘争の方針策定に向けた重要な場に、Web 参加の方も含め今年も多くのみなさんにご参集いただいたことに感謝します。
- ・本日の基調講演は、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科の山田（やまだ）教授と連合総研の市川（いちかわ）所長のお二方からいただきます。ご多忙の中ご快諾いただいたお二方にまず御礼申し上げます。ありがとうございます。
- ・10 月 19 日開催の第 1 回中央執行委員会において確認された「基本構想」にもとづき、多くの方からご意見をいただいて「2024 春季生活闘争方針」の策定につなげていきたいと考えておりますので、本日は活発なご発言・ご議論をお願いします。

【前闘争の振り返り】

- ・7 月 21 日の第 7 回中央闘争委員会において、「2023 春季生活闘争まとめ」はすでに確認しましたが、討論に先立ち、あらためて前回の闘争を振り返り、参加のみなさんと認識を共有したいと思います。
- ・2023 闘争は、連合が賃上げに改めて取り組んだ 2014 年以降では最も高く、ほぼ 30 年ぶりとなる水準の賃上げが実現しました。その理由は次の 3 点にあると分析しています。
- ・1 点目は、政労使の認識の一致です。
直近の物価高による組合員家計への影響はもちろんのこと、賃金水準の停滞が企業経営や産業の存続、ひいては日本の経済成長に及ぼす影響および「人への投資」の重要性について、政労使が一致した認識のもとで議論を進めることができたことが大きかったと思います。
- ・2 点目は、機運の醸成です。
全国的な運動展開と合わせ、メディアの報道などを通じて、全国的に賃上げの機運が醸成されたことも賃上げの後押しとなりました。
- ・3 点目は、加盟組合の皆さんの真摯な交渉の結果です。
何よりも加盟組合の労使で中長期的な視点を持って真摯に交渉を行ったことが結果につながったと思っています。加盟組合の皆さんに敬意を表したいと思いますし、「未来につながる転換点となり得る春季生活闘争」であったと受け止めています。

【2024 春季生活闘争を取り巻く情勢】

- ・ 本日の討論集会では「基本構想」の内容については、後ほど提起しますので、ここでは 2024 春季生活闘争を取り巻く情勢について簡潔に申し上げます。
- ・ まず、世界情勢ですが、ロシアによるウクライナ侵略は、解決の糸口が未だ見出せておらず中東でもイスラエルとパレスチナの紛争が勃発し、世界経済への影響が懸念されております。一日も早い平和的な解決が望まれます。
- ・ 一方、日本経済においては、物価上昇は続いており、日々の暮らし向きはまだまだ苦しい状況が続いています。
- ・ 政府は「景気は緩やかに回復している」としていますが、物価を加味した実質賃金はマイナスで推移し、勤労者世帯の暮らしは厳しさを増しています。
- ・ 実際、ほぼすべての人が前年に比べて「物価が上がった」と感じており、半数の人は「暮らしにゆとりがなくなってきた」と感じています。
- ・ 連合の調査でも半数の人たちが賃金への不満を持っており、特に中小企業で働く人たちの不満はさらに高いとの結果も見られます。

【2024 春季生活闘争方針の策定に向けて、今日の討論に期待すること】

- ・ このような状況を踏まえ、2024 春季生活闘争方針の策定に向けて、本日の討論に期待することも含め所見を申し上げます。
- ・ 一つ目は、2023 闘争を上回る賃上げをみんなで目指すということです。
連合として「未来づくり春闘」を掲げて 3 度目の闘争となります。経済成長や企業業績の後追いではなく、産業・企業、経済・社会の活力の原動力となる「人への投資」を起点として、経済の好循環を力強く回していくことをめざしていきたいと考えております。
- ・ 「未来づくり春闘」を掲げた 2 年間の取り組みの結果、20 年以上にわたるデフレマインドが変化しつつあります。2024 春季生活闘争は、経済も賃金も物価も安定的に上昇する経済社会へとステージ転換をはかる正念場です。
- ・ その最大のカギは、社会全体で問題意識を共有し、持続的な賃上げを実現することにあります。
- ・ 2023 闘争と同じではなく、2024 春季生活闘争では、傷んだ労働条件の回復をはかり、生活向上につながる賃上げを実現し、2023 を上回る賃上げをみんなでめざす必要があると考えています。
- ・ 二つ目は、価格転嫁を確実に実施できる環境を整えるということです。
賃上げに向けてはその環境整備が重要です。つまり、価格転嫁などの取引の適正化の取り組みを強化する必要があります。2023 闘争時にはなかった新たな材料とし

て、政府は年末までに「労務費の転嫁の在り方」についての指針を策定するとしています。連合は、9月末に政府に対し、実効性がある有効な内容となるよう、緊急要請を行いました。引き続き、働きかけを行っていきたいと思います。

- ・三つ目は、政策制度の実現です。

10月20日に、臨時国会が開幕しました。現下の物価高への対応などをめぐり、補正予算案や政府の経済対策などに関する本格的な国会論戦が展開されています。収入の壁対策をはじめとして、場当たりの対応では、政策効果は限定的・一時的で、抜本的な解決にはなりません。政策制度の取り組みを車の両輪として、働く者の総合的な生活向上を目指していかなければなりません。

- ・四つ目は、ジェンダー平等・多様性推進の取り組みの強化です。

春季生活闘争は、賃上げだけでなく労働環境についても労使が集中的に論議する絶好の機会でもあります。連合が掲げる「ジェンダー平等推進計画フェーズ1」は最終年を迎えました。目標達成のためのチェンジ・チャレンジ・ムーブメントの取り組みについて、この機会にぜひ、労使で点検をお願いします。

- ・結びに、2024 闘争はこれまでの単なる延長ではありません。ここは「経済社会のステージ転換の正念場」です。この場に参集された一人ひとりが社会のうねりをつくるリーダーです。そして各組合で真摯な交渉を繰り広げる組合員一人一人が、すべての働く仲間の未来をつくる主役です。連合はこの重大な役割を担い、運動をけん引していきます。
- ・連合、一体となって、ともに頑張りましょう！ご清聴ありがとうございました。

以 上